

No.16 2025年3月16日

受難節第二主日礼拝  
 説教『神はそのひとり子をたまわった』  
 山根眞三師  
 司会 神笠千愛さん  
 奏楽 白石百合子さん  
 招詞 ローマ人への手紙14章7～9節  
 主の祈 (564)  
 讃詠 5 4 6  
 交読詩編 詩 2 5 編  
 祈禱  
 讃美歌 21 - 1 9 4  
 使徒信条 (566)  
 聖書 ヨハネ福音書 3章14～21節  
 説教 (口語訳139頁、新共同訳167頁)

『神はそのひとり子をたまわった』  
 祈禱 美 禱 2 6 2  
 讃美歌 金 謝 告 榮 禱 奏  
 感 報 頌 祝 後  
 美 歌 2 6 2  
 謝 告 榮 禱 奏  
 5 4 1

次週の礼拝(受難節第三主日礼拝)  
 説教『イエスへの服従が求められたが』  
 ルカによる福音書 9章57～62節  
 招詞 エペソ書5章1～2節/交読詩篇34編  
 讃美歌 546、285、21-505、542

礼拝当番  
 今週 16日 司会 神笠さん 献金 市川さん  
 次週 23日 司会 高橋さん 献金 吉丸さん  
 会堂清掃奉仕 3月21日(金)  
 午後4時～ めぐみ幼稚園保育者

本日の集会

★教会学校 午前9時45分  
 ★出合いのひととき 礼拝後～  
 それぞれの思いを語り合しましょう。

◎故山根由美子さん誕生日記念会 午後1時30分～3時  
 追悼演奏 ヒロシマハンドベルリンガーズ  
 先に天に召された山根由美子さんの誕生日を覚え記念会が持たれます。讃美と祈りとの思いを共有しましょう。

今週の集会/スケジュール

※めぐみ幼稚園卒園式予行 3月17日(月)10:00～11:30  
 ※めぐみ幼稚園第75回卒園式 3月18日(火)10:00～11:30  
 9名の年長さんが卒園されます。神さまの導きと祝福の中を歩んできました。おめでとうございます  
 ※めぐみ幼稚園2024年度終業式 3月20日(木)10:30～  
 園長先生を神様のもとにお送りした2024年度の歩みを終えます。守りと導きを感謝します。

次週以降のスケジュール等

●レコードコンサート 3月23日(日)13:00～15:30  
 プフィツナー「パレストリーナ」より3つの前奏曲  
 モーツァルト 交響曲第四〇番ト短調K550  
 ブラームス 交響曲第四番ホ短調Op98  
 §広島市キリスト教会連盟総会 3月24日(土)14:00～  
 市内のプロテスタント教会の総会です。  
 ★広島西分区2025年度全体会 3月29日(土)10:00～12:00  
 於：広島流川教会  
 教職議員:山根眞三師、信徒議員:吉丸初美さん  
 広島西分区の新しい歩みが決められます。  
 ★山根眞三牧師隠退記念礼拝 3月30日(日)10:30  
 1968年4月から広島西部教会牧師としてひとすじに歩んでこられた牧師の最後の礼拝です。

先週の集会	男	女	計
教会学校	0	0	0
主日礼拝	2	8	10
聖書を読む会	3	3	6

◇今週の説教要旨(受難節第二主日礼拝)

『神はそのひとり子をたまわった』ヨハネ福音書3章14～21節  
 広島拘置所での教誨は勇気を与えてくれる。旧約にはヨセフ物語がある。孝行さんはこのヨセフ物語に示されるヨセフとエジプトのファラオの関係から示される人間関係の豊かさを語ってくれた。厳しい人生の歩みを超えて出会った関係は本当に大切なことを示されると。孝行さんの歩みの中に彼は神の導きと祝福を覚えている。イスラエルの民族の枠を超えてヨセフは神の示しを信じた。こんな話を孝行さんから聞かされ、人は自分のどんな道であったとしても神の導きと知恵を信じる時には神の愛に出会う。そのようなことを示された。ヨセフがそうであったように、ヨハネの教会の信者達もそうだった。ユダヤ人社会の中でイエスこそ救い主だと語り、証し、歩むことはとても難しいことだった。イエスは私たちの罪のために十字架にかかり、復活されたのだと生きることは、ユダヤ人社会の常識や教えと衝突して生きなければならなかった。ユダヤ人社会では明らかにイエスは律法の教え、神ヤハウェに逆らった存在そのものだった。日々の歩みの中でヨハネの教会の人々が支えられる教えが今日の聖書そのものだった。十字架で処刑された方。それはユダヤ人社会では明確にある種の犯罪者としてしか評価されてはいない。そのような中で、ヨハネの教会の信者がとても大切にしたのはイエスは神の子であるという信仰だった。神はそのひとり子を私たちの世界におおくり下さったのだ。しかもそれは世を裁くというユダヤ人社会と対立し、争いを起こすためではなく、世を救い、愛するために他ならなかった。私たちはとすると何事も対立概念でものを見つめ、評価してしまう。決してそうではなく、神のひとり子を受容し、理解し、信じる姿の中に神の愛に出会うためだった。私たちの社会、交わりはどうしても勝つ、負けるが支配的になってしまう。そうではない。